



## 「がんゲノム医療」に思う

2人に1人が癌になる時代になった。癌治療も近年大きく変化している。臓器ごとに使う抗がん剤が決まっていたが、これからは、原因遺伝子ごとの治療に代わりそうだ。患者の遺伝子を調べて、一人ひとりに最適な治療薬を選ぶ「がんゲノム医療」が6月から一部保険の対象になった。100種以上の遺伝子を調べる手法などを使い、副作用を抑えて治療効果の高い治療を患者ごとに探せるようになるという。薬剤師でありながら、「癌になったら、抗がん剤は受けない」選択をしようと思っていたが、考え直そうと思う。ただ、保険の対象はまだ一部なので「自由診療」「先進医療」は高額である。果たして、社会保障費が医療の進歩についていくのかも危惧する。

英国などでは、費用対効果の評価を、保険適用の対象とすべきかどうかの判断材料にも使う。最終的には社会的影響なども考慮して費用負担のあり方を決めている。社会保障費の予算には限りがある。皆保険制度の継続が維持されるよう、賢い医療の選択をするのか、選択させられるのか考える時代に入ったと思う。

庄子 2019.6.17